

編集後記

本号が発行される今頃はちょうど真夏になったといったところでしょうか。毎年のことですが、本号では昨年度の客員所員に寄稿いただきました。客員所員の先生方は、本務が忙しいなか、何とか日程を調整して物性研に来ていただいているのが現状です。日本人客員所員と比べて、長期に滞在している外国人客員所員と滞在型国際ワークショップに参加している外国人研究者は、研究に専念できているよううらやましくみえます。しかし、研究以外のことで時間をとられてメールの返事が遅い外国人もいますので、研究に専念できるのは本務地外にいるからかもしれません。私が編集の一部を担当している専門誌でも、国内外を問わず、時間がないことを理由に査読をしばしば断られます。お互いに忙しいながらも国際的な共同研究があたりまえとなっている現代において、この客員制度をうまく利用できるように工夫することがますます重要になっています。

小 森 文 夫